

まえがき

この本は、東日本と西日本の文化のちがいを紹介したものです。

1巻では「年中行事と食文化」について、2巻では「生活全般」について、この3巻では「ことばとあそび」について紹介しています。

「スコップ」と「シャベル」は、東日本と西日本では意味するものが逆である。「行けたら行く」と言ったとき、どれくらい行こうと思っているかは、東日本人と西日本人とでは、大きな差がある。

「あさって」の次の日を何と言うかは、東日本と西日本でちがいがある。「だるまさんがころんだ」は、全国各地、いろいろな名前であそばれている。この3巻では、このような東日本と西日本のちがいを紹介しています。

なお、東日本、西日本のなかにもいろいろな文化圏があるため、さまざまな例外があることもご了承ください。

この本を読むと、こういった「ちがい」の面白さというのは、自分たちの生活圏だけを見ては決して気づかないということがわかるはずです。

あなたの地域の「当たり前」も、日本全体で見ればそれはひとつの特徴であり、全国の事例を集めてみると、とても面白い発見がある。

これは何もこの本で取り上げている「ことば」や「あそび」だけでなく、あらゆる分野においても同様の発見があると思います。

どこの地域であっても「なにもないつまらない場所」というところはありません。何かに注目してみて、それを全国、あるいは世界とくらべることで特徴があらわれて面白くなる。この本がそんな体験のはじめの一歩になればなと思っています。

そして、この本を手にしたみなさんには、できるかぎりこういったちがいを楽しんでもらいたいと思います。

この日本の中に、様々な文化のちがいがある。それは旅をするときや、いろいろな人と出会うときの、とても楽しい要素になってくれると思うのです。

岡部 敬史

も く じ

「塩味」に対する表現のちがい からいとしょっぱい	4
学校の中の「方言」 押しピンと画びょう	6
呼び方が逆なもの スコップとシャベル	8
からだに関係ある呼び方のちがい さかむけとささくれ	10
地域からの距離による呼び方のちがい かたつむりと妖怪とおまじない	12
時間の感覚のちがい 「行けたら行く」は、どれくらい行く?	14
言い方や意味する日が異なる 「あさって」の次の日は何?	16

地域によってちがう表現方法 動物の鳴き声	18
全国に多様な呼び名がある食べ物 今川焼きを何と呼ぶ?	20
じゃんけんの地域性 組分けじゃんけん「グーパー」と「うらおもて」	22
地域によってちがうフレーズ えらび歌	24
地域によってちがう形と呼び名 コマとおてたま	26
全国各地のあそびのバリエーション だるまさんがころんだとどろけい	28
書かれた内容やルールがちがう いろはかるたと百人一首	30

からいとしょっぱい

東日本と西日本で、きれいに分かれるもののひとつに「塩味」に対する表現があります。塩味が効きすぎているものを食べたとき、東日本では「しょっぱい」と言うのに対して、西日本では「からい」と言いました。ただ、これだと



カレーライスなどの「からい」と混同するので、次第に塩気のからさを「しおからい」と言うようになったのです。

味の表現で面白いものとしては、岩手県で使われている「くるみ味がする」があります。これは、おいしいものを食べたときに使う表現で、魚を食べても、お肉を食べてもおいしければ「くるみ味がする」と言うのです。岩手県においてくるみは特別なもので、古くから庭に木を植えて、その実をだんごやお餅、ご飯やお味噌汁に入れて食べる馴染み深いものでした。こういった背景から生まれたことばと考えられています。

「ごちそうさま」に対する返事も、地域によって異なることで知られています。今、もっとも使われているのは「おそまつさまでした」という謙遜する言

い方でしょうか。ただ関西では「よろしゅうおあがり」という言い方が広く使われています。一般的な感覚で言えば、「よろしゅうおあがり（たくさんめしあがってください）」というのは「いただきます」に対する返事のような気もしますが、これは「よろしゅうおあがり（ましたか?）」という疑問文が短くなったものと考えられています。つまり「たくさんめしあがりましたか?」「満足していただけましたか?」という意味で、これが短くなった「よろしゅ

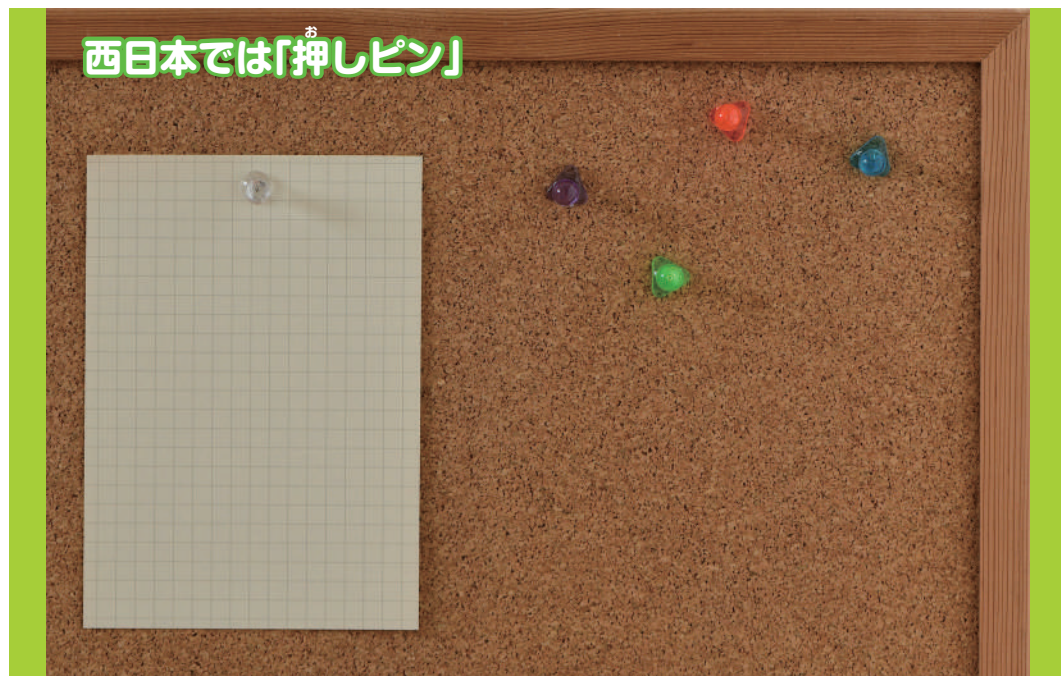


う」という言い方もあります。また長野県では、「ごちそうさま」を「いただきました」ということで知られています。同県では、このように標準語を過去形にして使うことが多く、「ただいま」の代わりに「行ってきました」という言い方もします。

最後に「遠慮のかたまり」を紹介しておきます。大きなお皿にたくさん盛られた食べ物をみんなで食べていると、最後にひとつ残ったりしますよね。それをみんなが遠慮して誰も食べない状態になったことを関西では「遠慮のかたまり」と言います。ただ、そのまま残っていても仕方ないので「遠慮のかたまり食べますね」と言っていた方がいいかもしれませんね。

押しピンと画びょう

みなさんが学校で使うモノにも、西日本と東日本で呼び名がちがう場合があります。その代表的なものが「画びょう」です。この名前を自然に感じる人は、おそらく東日本の人でしょう。西日本では「押しピン」と言います。



6

画びょう、押しピンを使って貼りつけるものと言え、^{もそうし}「模造紙」ですが、この紙は、全国各地にさまざまな呼び名があることで知られています。一例を挙げると山形県の^{おおばんし}「大判紙」、新潟県の^{たいようし}「大洋紙」、富山県の「がんび」、岐阜県や愛知県の「B紙」、香川県や愛媛県の「鳥の子用紙」などがあります。

「がんび」は、和紙の原料となる^{がんび}「雁皮」という木の名前が由来と考えられています。なぜ富山県だけこの名前と呼ばれているのかは、よくわかりません。

いくつかの県だけで使われている学校ことばは、まだまだたくさんあります。

たとえば愛知県などでは、放課後に限らず休み時間のことを「ほーか」（放課）と言います。また、山形県では、丸数字の①や②のことを「いちまる、にま

る」と呼びます（多くの県では「まるいち、まるに」ですよね）。

また、大学生の年数は、関東では「1年生、2年生……」と呼ぶのに対して、関西では「1回生、2回生……」と呼ぶというちがいもあります。

鹿児島県や島根県、愛媛県などの一部で使われる「ラーフル」。学校にきつとあるものですが、これが何かわかりますか？ 正解は「黒板消し」のことで、オランダ語がその由来という説もあります。しかし、なぜこういったこと



7

ばが使われてきたのかはよくわかりません。ただ、当地の人は、当たり前のように「ラーフル」と呼んでいたのが、後になって「これが方言だとは思わなかった」と感じるそうです。

こういった学校で使われていることばは、他とくらべる機会が少ないためか



「わたしたちのところだけだったの？」とおどろくことが多いようです。みなさんの学校の中の「方言」を探してみるのも楽しいかもしれませんね。